

新城屋新田船渠関係書類概要

1: 文書群番号	063005
2: 文書群名	新城屋新田船渠関係書類
3: 出所	大林組
4: 家業・役職等	-
5: 地名	兵庫県川辺郡大洲村／尼崎市東向島東之町ほか
6: 行政区分	尼崎町／尼崎市
7: 歴史	<p>①大林組は明治25年(1892)大林芳五郎(元治元～大正5年)が大坂で創業。明治30年代には大坂築港工事・内国博覧会工事などで実力を示し、日露戦争の際は朝鮮で鉄道・軍事関係工事に従事した。明治37年店名を大林組に改称、42年に合資会社となる。芳五郎は北浜銀行頭取岩下清周らと親しく交流があり、岩下が尼崎町新城屋新田に設立した日本醤油醸造(明治43年倒産)の整理、北浜銀行事件(大正9年)に関わった。また芳五郎は日本製樽(明治44年尼崎に設立、大正5年三井物産が買収・尼崎樽工場と改称)の社長もつとめた。</p> <p>②横浜電線は明治43年(1910)に大坂天満与力町矢部電線を買収、大坂に工場進出した。翌年尼崎向島の日本醤油醸造の跡地を購入・新工場を建設し移転、以後主力工場となった。大正9年(1920)に日本電線製造と合併。</p>
8: 伝来	昭和39年(1964)3月に古書籍商より購入、平成14年(2002)4月に整理・目録作成を完了。
9: 史料入手先	古書籍商
10: 点数	15点(目録件数15件)
11: 年代	明治44年(1911)～大正7年(1918)
12: 構造と内容	<p>本文書群は大正期に大林組が尼崎市に所有した土地に関する文書で、①横浜電線製造株式会社・大林組両所有地の境界および船渠(荷揚げ・船入場)使用についての契約書類、②大林組など大阪資本家による共同所有地の収支決算報告・配当関係の書類からなる。明治末期から大正初年にかけての、大阪資本家による尼崎への工場進出の一端をしめす史料である。</p>
13: 関連史料	-
14: 閲覧条件	原本
15: 作成者	松迫寿代